

全国青パトフォーラム2016

【実施報告書】

2016年10月

日本財団 審査本部 国内事業審査チーム



はじめに

2004年12月の道路運送車両法の規制緩和により、警察からの許可を受けた防犯団体は、青色回転灯を点灯させて防犯パトロールを行うことが可能となりました。現在、全国で登録されている青色回転灯装備車(通称:青パト)は個人車両も含めて約44,000台となっています。(2015年12月31日現在 警察庁生活安全局生活安全企画課)

日本財団では、青パトによる防犯活動を、地域づくりの一環と位置づけて、活動団体に対して、ハードとソフトの2面から支援してきています。

ハード事業としては、青パト車両の整備助成を行っており、当財団では、2008年度から2016年度末までに白黒に塗り分けた防犯活動の専用車を、全国に226台配備してきました。

また、青パト団体の活動の活性化を目指すためのソフト事業として、全国の防犯団体や関係機関の皆様を対象に年1回、青パトフォーラムを開催しています。これまで東京で2回、福岡、大阪で各1回、より有効な活動を行えるような情報提供や課題解決のための議論の場、さらには各関係者同士の交流の場を提供してまいりました。

地域と連携して行われる防犯活動は、安心・安全なまちづくりに寄与しているところではありますが、課題も指摘されています。特に、パトロールの方法としてこれまで主に行われてきたランダム・パトロールは、防犯効果が高くはないことが報告されており、今回はより効果的な方法であるといわれている「ホットスポット・パトロール」に焦点を当てたフォーラムを企画いたしました。

フォーラム当日の午前中は、小宮信夫立正大学教授を講師に、実際に戸外に出て、こういった場所がホットスポットとなりうるのかについて、人数限定でのフィールドワークを実施しました。キーワードは「入りやすく、見えにくい」、たとえば全面ガラス窓であってもそこに特大ポスターが掲示されていると死角ができてしまうこと、出入り口にチェーンが張ってあるだけで、心理的に入りにくいスペースとなることなど、目から鱗の学びとなったとご好評を頂きました。午後からは、小宮教授の基調講演「日本の防犯常識のウソ：真に効果的な防犯対策とは」、フィールドワーク参加者による報告、少人数に分かれての参加型グループワーク研修を含むワークショップ「犯罪機会論とホットスポット・パトロール」などを実施し、活発な意見交換等がなされました。

地域力がますます必要とされる超高齢化社会を迎える我が国にとって、青パト活動は地域を結びつける有効なツールであると考えられることから、日本財団はこれからも青パト活動に関する事業を支援し、安心・安全なまちづくりをお手伝いしていきます。

1. 名 称：全国青パトフォーラム 2016
2. テ ー マ：「青パト活動の誤解と真実」
3. 日 時：2016年10月1日（土）13：00～17：00
4. 会 場：日本財団ビル
5. 主 催：日本財団
6. 後 援：警察庁、東京都、警視庁
7. 参加者数：161名（80団体、来賓他）
8. プログラム

～特別企画～

10：30 フィールドワーク 「ホットスポットパトロールとは？」

講師 小宮 信夫（立正大学文学部教授）

13：30 開会宣言

主催者挨拶 尾形 武寿（日本財団 理事長）

来賓紹介 細川 真宏（警察庁生活安全局生活安全企画課都市防犯対策官）

来賓紹介 藤森 雅之（警視庁生活安全部生活安全総務課調査担当管理官）

13：40 基調講演「日本の防犯常識のウソ：真に効果的な防犯対策とは」

講師 小宮 信夫（立正大学文学部教授）

14：30 フィールドワーク報告

15：00 ワークショップ「犯罪機会論とホットスポット・パトロール」

講演

グループワーク

16：30 青パト事業説明

17：00 閉会

17：30 懇親会

参加者リスト

参加者集計

地域集計別

カテゴリー	所在地	団体数	人数
		参加	参加
防犯団体	東京都	17	31
	神奈川県	8	16
	千葉県	10	35
	茨城県	1	2
	埼玉県	3	5
	栃木県	3	10
	関東以外	25	34
警察関係		5	5
行政関係		8	8
来賓・講師・他		(6)	15
合計		80	161

団体別集計

団体所在地		団体名
関東		
東京都	渋谷区	原宿署YSJ/パトロール隊
東京都	足立区	扇一丁目親栄町会
東京都	中野区	鷺宮四丁目町会
東京都	足立区	光管財株式会社
東京都	世田谷区	下代田東町会
東京都	文京区	日本住宅ローン株式会社
東京都	練馬区	桜台一丁目町会
東京都	新宿区	日光警備保障株式会社
東京都	葛飾区	タイヨー株式会社
東京都	新宿区	ゼノンパトロール
東京都	新宿区	新宿若松地区協議会青色パトロール隊
東京都	大田区	認定NPO法人たすけあい大田はせさんず 大田区池上まちおこしの会
東京都	三鷹市	上連雀1丁目町会
東京都	府中市	西原町自治会
東京都	府中市	白糸台東部自治会
東京都	調布市	タスクネット東京
東京都	久留米市	東久留米市伊防犯パトロール隊
神奈川県	横浜市	神奈川区福祉施設等防犯連絡協議会
神奈川県	横浜市	め組
神奈川県	横浜市	片倉町大丸町内会
神奈川県	大和市	中央林間西自治会
神奈川県	小田原市	JCPA NPO日本犯罪防止事業団 神奈川県本部
神奈川県	相模原市	田名地区防犯協会
神奈川県	逗子市	小坪交番連絡協議会
神奈川県	海老名市	大谷自治会自主防犯パトロール隊

千葉県	千葉市	NPO法人ユースサポートセンター友懇塾
千葉県	千葉市	千葉南遊技場防犯協会
千葉県	千葉市	株式会社MSK
千葉県	千葉市	千葉南警察署管内防犯協会
千葉県	佐倉市	(特非)クライネスサービス
千葉県	佐倉市	「育絆会」BPC(ブルーパトロール・クルー)
千葉県	佐倉市	根郷小学校まちづくり協議会
千葉県	松戸市	認可地縁団体 幸谷町会
千葉県	柏市	柏市防犯協会
千葉県	柏市	柏市宿連寺町会
茨城県	古河市	社会福祉法人芳香会 芳香会病院青嵐荘療育園
埼玉県	草加市	八幡小学校区パトロール隊
埼玉県	深谷市	台天白自治会
埼玉県	草加市	安行ブロックパトロール隊
栃木県	鹿沼市	鹿沼市中央地区自治会協議会
栃木県	佐野市	(社福)とちのみ会
栃木県	鹿沼市	南摩地区防犯協会
関東以外		
宮城県	仙台市	高砂防犯協会
新潟県	長岡市	長岡市中興野防犯組合
富山県	富山市	(特非)安全企画センター
富山県	魚津市	加積地区防犯組合
長野県	茅野市	茅野防犯協会連合会別荘等部会
岐阜県	岐阜市	芥見地区の安全を守る会
岐阜県	岐阜市	長森北生活安全推進協議会
岐阜県	羽島市	堀津町地域防犯パトロール隊
静岡県	富士見市	埼玉富士見市水谷第7町会
愛知県	一宮市	丹陽防犯パトロール隊
愛知県	一宮市	特殊防犯パトロール隊
愛知県	みよし市	三好上行政区防犯パトロール隊
愛知県	豊田市	若園地区防犯隊
三重県	松坂市	松坂市市民活動団体 楽笑会
滋賀県	大津市	真野北学区自主防犯推進協議会
大阪府	大阪市	東大阪市自治協議会
徳島県	阿南市	(社福)阿南淡島会
広島県	広島市	(社福)広島常光福祉会
広島県	東広島市	東広島市防犯連合会
愛媛県	西条市	西条地区青色防犯パトロール隊連絡協議会
高知県	南国市	社会福祉法人 土佐厚生会
大分県	大分市	大分県社会福祉事業団
宮崎県	都城市	奨禮会
宮崎県	宮崎市	(一社)STEP UP COCORO
沖縄県	豊見城市	真玉橋自治会(まだんばし)

警察関係		
神奈川県	横浜市	神奈川県警察本部 生活安全総務課
青森県	青森市	青森県警察本部
山形県	山形市	山形県警察本部 生活安全部生活安全企画課
京都府	京都市	京都府警察本部 生活安全企画課 警部補
京都府	京都市	右京警察署 京都市右京防犯推進委員連絡協議会
行政関係		
東京都	板橋区	板橋区役所
東京都	東村山市	東村山市役所
東京都	西東京市	西東京市 危機管理室
千葉県	千葉市	千葉県庁くらし安全推進課防犯対策推進室
千葉県	松戸市	松戸市 市民安全課
千葉県	印西市	印西市 市民安全課
群馬県	前橋市	群馬県生活文化スポーツ部消費生活課
埼玉県	戸田市	戸田市役所 防犯くらし交通課
来賓・講師		
		警察庁 生活安全局 生活安全企画課 都市防犯対策官
		警察庁 生活安全局 生活安全企画課 課長補佐
		警察庁 生活安全局 生活安全企画課 警部
		警視庁 生活安全部 生活安全総務課 調査担当管理官
		警視庁 生活安全部 生活安全総務課 警部補
		立正大学文学部社会学科教授

「ホットスポット・パトロールとは？」

小宮 信夫(立正大学文学部 教授)



午前中は少人数でのフィールドワーク：立正大学小宮教授のご指導で港区内を歩いてまわり、ホットスポット（危険な場所）について学びました。



ビルの間はチェーンがあるだけで、心理的に入りにくくなるとのことでした。



建物に挟まれた駐車場は、入りやすく、見えにくい場所となります。



日本財団尾形武寿理事長の挨拶

日本財団は安心・安全なまちづくりを支援しています。
老若男女、障害のある人もない人も、みんなが普通に暮らせる、そうした社会作りの一環として、青パト事業を実施しています。
青パト車両の整備、効果的な防犯活動を行うための手法の提供と情報交換の場としてのフォーラムの開催により、今後もお互いがお互いを助け合えるような社会を作っていけるよう努力していきます。



「日本の防犯常識のウソ：真に効果的な防犯対策とは」

小宮 信夫(立正大学文学部 教授)

基調講演では、犯罪学における「犯罪原因論」と「犯罪機会論」を中心に、これまで多くの場所で実施されてきた防犯活動における誤解と、効果的な方法についてご講演頂きました。



犯罪原因論と犯罪機会論

犯罪原因論とは：

犯罪の原因を探ることで犯罪を防止しようとするもので、「なぜあの人が？」という考え方に基づくものです。これは犯罪が発生した後での理論であり、犯罪を防止することには繋がりません。

犯罪機会論とは：

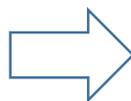
犯行の機会があるかないかという観点から防犯を考える手法です。「なぜここで犯罪が？」という点に注目し、犯罪を生み出すような場所、状況、環境に着目します。

ランダムパトロール

従来のパトロールの手法

パトロールのルートを固定せず、毎回違ったルートをとるもの

これまでの科学的検証では防犯効果があると認められていない



ホットスポット・パトロール

推奨されているパトロールの手法

犯罪が起こりやすい場所であるホットスポットを重点的に回るパトロールの手法

アメリカの研究結果では、犯罪の予防に効果がある、と結論付けられている

10人程度の小グループに分かれて、自己紹介や情報交換



防犯クイズに答えながら、フォーラムで学んだ知識の確認



現実に存在する場所の映像を見て、何が危険かを話し合って発表



青パト活動の誤解と真実

誤解：

- ・ルートを決めずにぐるぐる回るパトロールが効果的
- ・パトロールでは不審者を探す
- ・寂しい場所への街灯の設置促進
- ・みんなのトイレは、みんなに便利で役に立つ

真実：

- ・ホットスポットを認識したパトロールが効果的
- ・ホットスポットには15分とどまる
- ・昼間安全でない場所に、街灯を設置しても安全にはならない
- ・トイレのレイアウトでは、男性用が手前で、女性用が奥が基本
- ・みんなのトイレも男女別にするべき

パトロールするとき、注意すべきこと：
「入りやすい場所」と「見えにくい場所」を特定する

入りやすい場所の例：

- ・ロープで囲まれていない空き地
- ・フェンスのない駐車場や公園
- ・校門が開いている学校
- ・トンネル

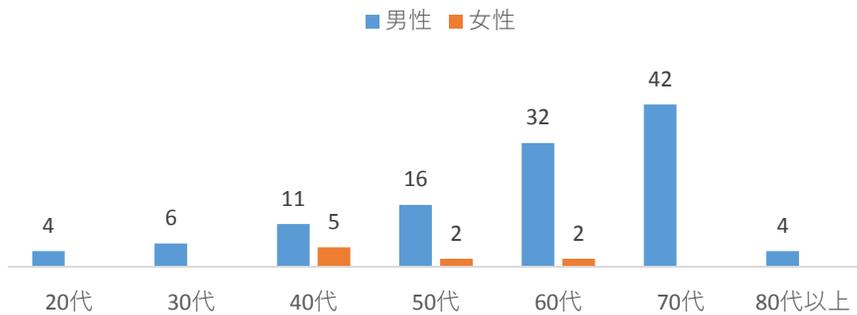
見えにくい場所の例：

- 物理的に視線が届きにくい場所
 - ・自動販売機や工事中など視線が遮られる場所
 - ・高い塀に囲まれた場所
 - ・田んぼ道
 - ・屋上
- 心理的に視線が届きにくい場所
 - ・不特定多数の人が行き交う駅前
 - ・落書きなどがある塀
 - ・不法投棄されたゴミが放置されたままの場所

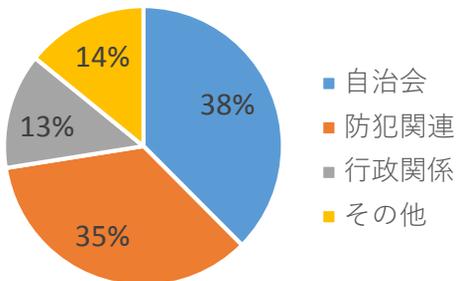
アンケート結果概要

実施年月日：2016年10月1日
 対象人数：152名(フォーラム参加者)
 回収人数：125名
 回収率：82%

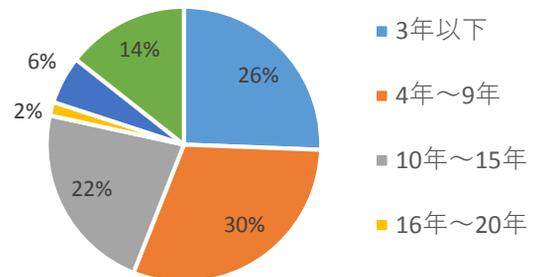
参加者の性別・年代



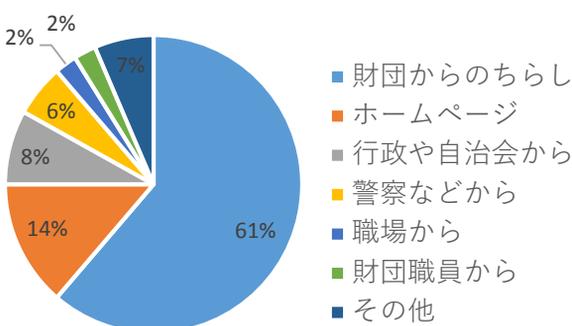
団体の所属



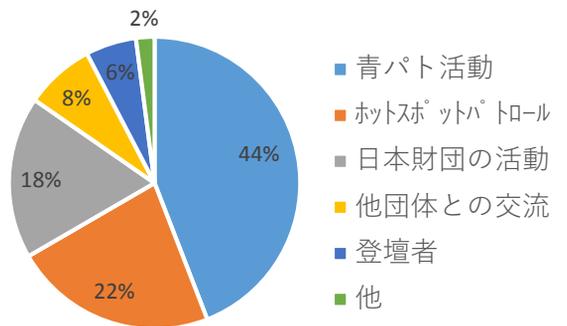
活動年数



Q1 今回のフォーラムはどの情報媒体で知りましたか？

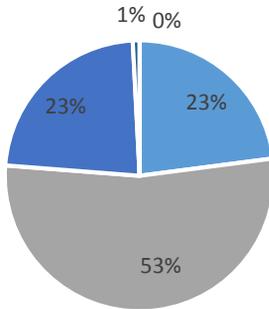


Q2 何に興味を持ってご参加されましたか？



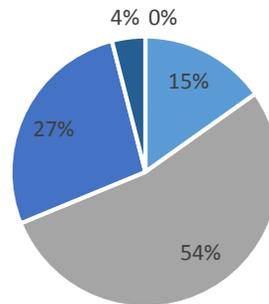
■ とても満足 ■ 満足 ■ ふつう ■ やや不満 ■ 不満

Q3開催会場はいかがでしたか？



満足理由
 ・交通の便が良い
 ・会場の設備が良い

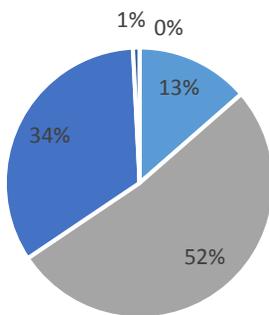
Q4開催曜日はいかがでしたか？



満足理由
 ・平日はパトロールや勤務があるため週末で良かった

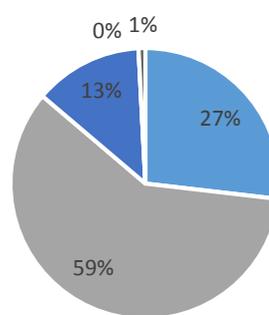
不満理由
 ・地域の行事が多く、調整が必要

Q5開催の時間はいかがでしたか？



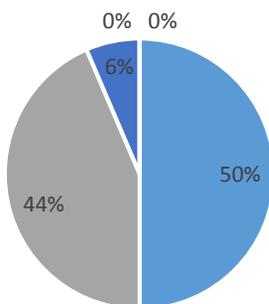
満足理由
 ・地方からも日帰りできるから
 ・昼食後でちょうど良い

Q6スタッフの対応はいかがでしたか？



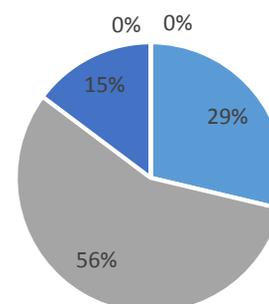
満足理由
 ・親切丁寧で良かった
 ・突然参加でも聴講できた
 ・コーヒーの手配が嬉しかった

Q7今回の講演内容はいかがでしたか？



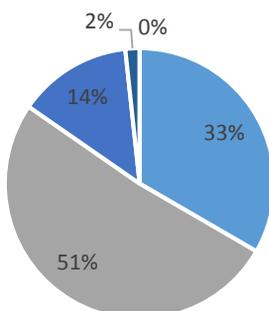
満足理由
 ・講義内容が解り易く良かった
 ・別の見方による防犯の考え方を知ることができた
 ・自分の意識が変わった

Q8フィールド・ワークの報告はいかがでしたか？



満足理由
 ・実践を通して良くわかった
 ・実際の事例を見ることができた
 ・参加者目線の視点、感想は役に立った

Q9ワークショップはいかがでしたか？



満足理由
 ・一方的に話を聞くだけでなく、参加意識が高まる内容だった
 ・グループで手書きの名刺交換も含めて楽しかった
 ・とても工夫されていて満足。勉強になりました

Q10今後、全国青パトフォーラムでは何を期待しますか？

- ・今後もこのフォーラムを持続してほしい
- ・青パトの体験、事業報告（失敗談や成功事例等）、ふるさと自慢、青パト試乗体験
- ・各地で開催してほしい
- ・「ホットスポットパトロール」の冊子のような啓発資料の充実がなされると大変助かる（HPからダウンロードできる資料など）
- ・総合事業、地域包括ケアシステムとの関係（助け合いのまちづくり）

助成内容

1. 対象となる団体

申請時に、『青色回転灯を自動車に装着して適正に自主防犯パトロールを実施することができる団体であることの証明書』を所持している団体で、原則として2年以上の活動実績があること

2. 補助率と対象経費について

補助率：事業費総額の80%以内

対象となる主な経費は、以下の通り。

新車（ボディカラー；白、原則として軽自動車）の購入代金

青色回転灯の装備費

日本財団指定の塗装経費（約20万円：メーカー、車種により変動）

自動ブレーキシステムの装備費（安全運行のため、必ずお見積りに含めてください）

※任意保険、ガソリン代、青パト出発式開催費は対象外です。

2016年度までの助成実績（2016年10月現在）

全国で、226台の青パトを配備

北海道	3
東北	1
関東	34
中部	44
近畿	55
四国・中国	24
九州	65
合計	226

青色回転灯装備車配備台数 日本財団助成：226台（2016年9月1日現在） 37都道府県で実施

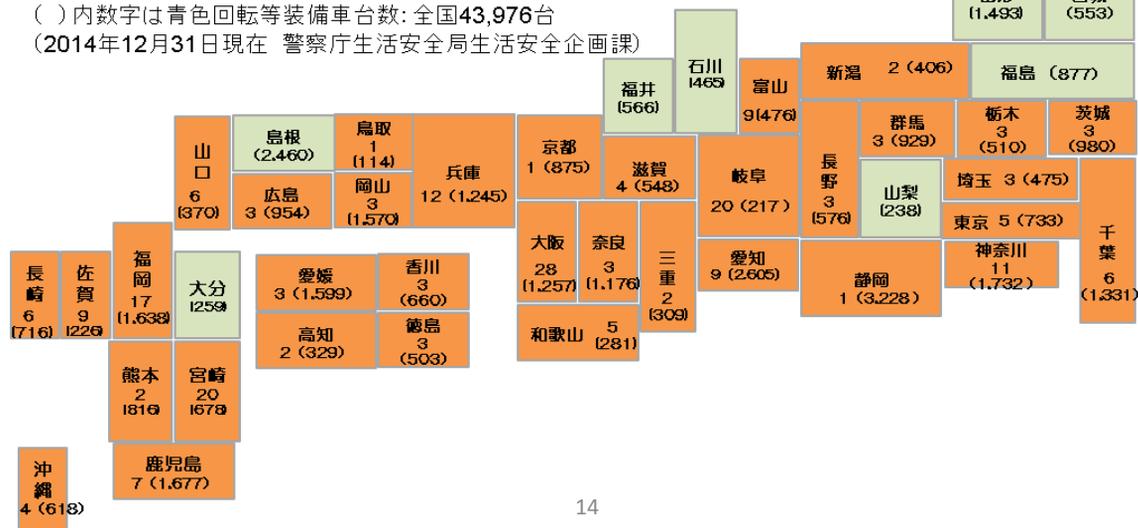
日本財団助成
実施地

日本財団助成
未実施地

数字は日本財団助成台数

()内数字は青色回転等装備車台数：全国43,976台

(2014年12月31日現在 警察庁生活安全局生活安全企画課)



青パト専用サイト：日本財団「チーム青パト」

青パト専用のサイトです！ぜひ、ご覧ください！

<http://teamaopato.wix.com/aopato>

注) Internet Explorer 8 以前のバージョンではご覧いただけません。
Internet Explorer 9 以上でご覧ください。



日本財団「チーム青パト」

ホーム

助成事業について

青パトフォーラム

お問い合わせ



全国青パトフォーラム2016 in 東京
2016年10月1日に開催いたしました。

ご参加ありがとうございました
ご参考までに⇒ちらしは、[こちら](#)

NEW! 2017年度通常募集の申請情報が更新されました。

⇒詳細については、[こちら](#)

© Copyright Me's vineyards ltd. all rights reserved.
© Copyright Nippon Foundation all rights reserved.



おわりに

今回の青パトフォーラムは、初めての試みとして実際に戸外に出てホットスポットを見極めるというフィールドワークを実施しました。朝早くからのプログラムではありましたが、40名近い参加ご希望をいただき、抽選となってしまったのは残念でしたが、少数精鋭で実施し、その成果を午後からのフォーラムで共有していただきました。

焦点を当てたホットスポット・パトロールについては、「目から鱗だった」、「これまでのやり方を見直さなければいけない」などの声が多く寄せられました。またこの手法を各地元に知らせていきたいという希望もあがってきております。日本財団は、2017年9月16日、仙台での「全国青パトフォーラム2017」の開催を予定しております。地域の関係団体、行政、警察等と連携し、引き続き効果的な防犯活動の手法を全国に広め、安心・安全なまちづくりを支援していきます。